



バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第181号

発行責任者
 社会福祉法人 バプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田 雄 次
 編集責任者 小 脇 勇
 福岡県粕屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎代 (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

クリスマスおめでとう！
 ～難民になった幼児、主イエス～

福岡城西教会名誉牧師 安藤 榮雄

クリスマスおめでとうございま
 す！
 日本には今、暗雲が漂い、闇が支
 配しています。これから戦争に巻き
 込まれるのではないか、人間の尊厳
 がさらに脅かされるのではないか。子
 どもたちの受難が多すぎるのではな
 いか。障害児・者の苦難はさらに深
 まるのではないか。そんな闇夜に、私
 たちはクリスマスを迎えます。

マタイによる福音書二章に、東の
 方からはるばるエルサレムに來た占
 星術の学者たちが、「ユダヤ人の王と
 してお生まれになった方は、どこにお
 られますか。わたしたちは東方でそ
 の方の星を見たので、拝みに來たの
 です」(二節)と、ご降誕物語は始ま
 ります。これを聞いて、ユダヤを支配
 するヘロデ王は不安の念を抱きます。
 ヘロデ王は、ユダヤの南、イドマヤ
 出身の異邦人であるため、ユダヤ人
 からは疎まれていました。ヘロデ王は
 立身出世するために、ハスモン家のマ
 リアムネを第二の妃に迎え、二子も
 生まれましたが、クーデター陰謀の
 嫌疑でこの二人の王子を絞首刑に処
 しました。最初の妃が生んだ長子を
 後継者にしようと呼び戻しましたが、
 その長子もヘロデ王暗殺の陰謀に関
 わった嫌疑で死刑にしました。このよ
 うにヘロデは、疑わしい者は、身内で
 さえも容赦なく殺すような、まさに
 恐怖時代が出現したのです。

ヘロデ王は、占星術の学者たちを
 呼び寄せ、「その子のことを詳しく調
 べ、見つかったら知らせてくれ。わた
 しも行つて拝もう」(八節)と言つて
 ベツレヘムへ送り出しました。占星術
 の学者たちは、星に導かれて幼児主
 イエスに出会い、黄金・乳香・没薬を
 献げて礼拝した後、別の道を通つて
 帰国したことはご存じの通りです。
 一方、主の天使が夢でヨセフに現
 れ、ヘロデがこの子を殺そうとして
 いるので、エジプトに逃げよと告げたの
 で、ヨセフたちはエジプトに逃亡しま
 す。他方、ヘロデは占星術の学者たち
 にだまされたとは知つて激怒し、確か
 めておいた時期に基づいて、「ベツレ
 ヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の
 男の子を、一人残らず殺させた」(一
 六節)という周到で残酷な幼児虐殺
 事件が起こりました。以前、『愛の
 手』クリスマス号の巻頭言で、金子
 啓一先生が、主イエスの身代わりに起
 こつた幼児虐殺事件について、主イエ
 スは、もちろん罪はまったくない
 にもかかわらず、罪責感を持た
 れたのではないかと、問いかけていま
 した。これを讀んだ私は、罪にからめ
 とられてしまう構造的罪に対しては
 主イエスは罪責を持たれたものではな
 いかと思ひました。
 難民の運命が過酷なものであるこ
 とを、最近の世界の状況を通して考
 えさせられています。とくに子ども
 難民の悲惨さには限度がありません。
 幼児主イエスはまさしくその難民の
 一人になられました。その母たちの悲
 しみ・親たちの痛みを担つて下さいま
 した。そして今もその通りです。幼児
 主イエスの難民生活の苦しみは、実
 は、父なる神の苦しみでもあります。
 だからこそ、闇のさなかにもかかわ
 らず、クリスマスは必ず訪れるのです
 ろう一度、クリスマスおめでとうござ
 います！

主張

「センター」としての新しい在宅支援の課題に取り組む久山療育園

理事長 山田 雄次

運動のはじめから50年の歩み

本日久山療育園重症児者医療療育センター(以下久山療育園)の第39回開園祭を多くの皆様をお迎えして開催出来ましたことを感謝致します。

さて2015年度7月待望の「在宅支援センター」が開設、その働きがスタート致しました。

1976年の開設以来39年間重症児者と共に生きる福祉社会づくりを旨とする久山療育園の重症児者運動がここ迄導かれたことに特別の感慨を覚えております。

思いおこしますとこれ迄の道りは順風満帆の歩みというより難しい局面に度々直面させられた厳しさの中での歩みでありました。

バプテスト心身障害児を守る会(法人の前身)発足のための第1回会議が1969年に開かれてから7年の運動の推進を経て、久山町での施設の受け入れが決まり施設開設の気運が高まる中3年後の1974年法人格取得のための設立発起人総会が開かれ、翌年1975年に社会福祉法人格の取得が成り1976年事業開始が現実化しました。

資金づくり、施設建設その他大仕事が目白押しでした。中で

も医師、看護婦(当時の名称)を始めとする職員の確保が常に一番の問題でした。重症児者施設の運営の厳しさは今日においても同様ですが、何もないところからスタートした久山療育園の運営にあられた初代川野理事長のご苦勞は大変であつたろうと想像しています。

久山療育園を支える三つの土台

聖書マタイによる福音書16章18節は教会はこの世を脅かす陰府の力もこれに打ち勝つことが出来ない堅固な土台、岩の上に建てられていることを語っています。久山療育園も同様だと言うことが出来ると思います。

40年の区切りの年を前に私は久山療育園が堅固な土台の上に建てられているという事を再認識し先行きの厳しさが予想される40年後に向けて使命感をもつて担うべき課題にチャレンジしてゆかなければと考えています。

久山療育園が堅固な土台の上に建てられていると言う時、具体的に堅固な土台とは何であるかということですが私は三つのキーワードをあげたいと思います。

その一つは久山療育園の働きの真の担い手は神ご自身である

ということですが。パウロはピリピ書の2章13節で「あなたがたの内に働きかけてその願いを起させかつ実現に至らせるのは神である」と語っています。久山療育園の開園から遡って10年の1967年にバプテスト心身障害児を守る会発足のための第1回会議が始まりから50年、幾多の危機や重要な節目節目で私たちの力を越えた導きに与つたこれ迄の歩みの体験を通して真の担い手は神ご自身であるということをお告げせずにはおられません。

その二つ目は自らが重症児者と共に生きる社会づくりを旨とする運動体であり、その実現のために主体的に久山療育園にかかわりこれを支援するバプテストコロニー友の会(教会)と心ある市民との連携による強力な支援組織を土台としているということです。

今から13年前の2002年の時点で支援献金が1億円に達した時バプテストコロニー友の会の支援活動に対する評価として川野理事長(当時)より「久山療育園のこれ迄の歩みにおいてコロニー友の会は常に希望と力の源泉であります」という感謝のことばを受けました。重症児

福祉の社会化を旨とする運動がある市民の方々の間にも拡がり、今日物心両面から幅広い強固な支援を受けて立てられていることは全国でも稀有な事例と言えると思います。その三つ目は「久山療育園は

単なる収容施設ではなく、重症児者が社会の中心に位置づけられて生きる新しい福祉社会(きょうどうたい)づくりの拠点となる」という特別な設立の理念の上に立てられているということです。この高い理念は最も強固な土台だと考えます。地域に開かれた施設を旨とし1990年に我が国最初の通園モデル事業に参画しそれに続く施策としての短期入所事業をはじめとし種々の在宅支援事業に取り組み、更に今回新しく「在宅支援センター」を開設致しました。

センターとしての久山療育園の使命

重症心身障害児者は全国で43,000人、福岡県では3,000人おられその内の三分の一は施設への入所で、それに倍する三分の二の方々は在宅となつています。在宅重症児者は障害が軽いかという決してそうではなくむしろ障害の重度化と親の高齢化で家族は将来の不安を抱え厳しい状況の中に置かれているというのが現状で在宅重症児者に対する適切な施策が求められ、今、在宅支援の強化が喫緊の課題となつています。

久山療育園は在宅重症児者家庭がかかえている深刻で多様なニーズに応えるため開設40周年の記念事業の第2段のプロジェクトとして「在宅支援棟」「重症者ホームひさやま」を併設した「在宅支援センター」を開設しました。「在宅支援棟」は短

期入所事業、通所事業、相談支援事業、訪問支援事業等々の在宅支援サービスの拡充、強化の働きの拠点として、「重症者ホームひさやま」は家庭介護の限界的状況の中から求められている新しい受け皿として定員10名の重症児者のためのグループホーム(共同生活支援事業)の開設であり、重症児者と共に生きる福祉社会づくりの拠点として立てられた久山療育園重症児者医療療育センターが使命感をもつて取り組むべき課題だと認識しています。

センターとは中央とか中心というよりことより重症児者が社会の中心に位置づけられ、家族と共に暮らすことが出来る福祉社会を紡ぎ出す働きを指すことばであることを思う時「在宅支援センター」の開設はまことに時機に叶つた働きであり事業の成功が期待されていると言わなければならぬと思います。久山療育園は規模から言えば決して大きな施設ではありませんが常にその働きにおけるセンター性という意味で重症児者の地域福祉の実現に向けた先駆的な取り組みをなす施設としての歩みを進めてゆかなければならないと考えています。

在宅支援の新しいテストケースとしての「在宅支援センター」の取り組みを皆様にご覧いただきたく切に願うものです。(2015年度開園祭式辞より)

制度・情勢

「障害福祉サービスの変容について」

センター長 宮崎 信義

障害福祉サービスは個別には障害の種類や程度で異なりますが、根本は「児童福祉法」（18歳未満）と「障害者総合支援法」（18歳以上）にその根拠があります。紛らわしいのは「介護保険法」に基づく「介護保険」で、これは医療保険に基づく「健康保険」「医療」と同じく被保険者及び事業者から拠出される保険金に基づいた保険で、混同されてはならないものです。

障害福祉サービス費（障害福祉給付）は、主に「措置費」から「施設給付費」の名称で実施されていきましたが、今年度から大幅に減額されました。その問題点と今後に懸念されることを含めて報告致します。

障害福祉制度の概略から

障害者に「65歳の壁」

平成27年（2015年）7月14日付の北海道新聞の記事によると、「障害福祉サービス」と「介護保険」の制度の違いがあり、特に障害者に「65歳の壁」があると指摘しています。「介護保険」には「障害福祉」独自のサービスには、①行動援護（危険を避けるための支援）、②同行援護（目の不自由な人の外出支援）、③自立訓練（身

体の機能回復と、家事や調理など生活訓練）、④一般企業などへの就労支援等があります。指摘されている障害者の「65歳の壁」とは、65歳（高齢者）になると、サービスを提供する制度が「障害者総合支援法」によるものから「介護保険」によるものに原則的に切り替わり、全国では数万人が影響を受けると推定されています。

「障害者総合支援法」では、所得の低い人への配慮措置が盛り込まれ、「障害福祉サービス」を利用する障害者の9割が無料でサービスを受けられます。しかし、法には65歳以上の障害者について、障害福祉よりも介護保険のサービスが優先的に適用されると明記されています。「介護保険」はサービス利用料の1割が原則的に自己負担になるとされていますので、福祉と比べて相当高い自己負担となります。ただ、厚労省は一律の適用を求めておらず、各自治体に障害者の要望にも配慮するように通知していると記述されています。現に、当センターでも「在宅支援センター」が開設され、もうじき65歳になる方のグループホーム入居や通所事業の利用について、介護保険が優

先されると生活や医療福祉の費用が障害年金を超えてしまう懸念があり、住民票を置いている市町村と協議しました。幸い障害者福祉サービスが認められることとなりましたが、市町村による温度差や担当者が変更になると継続されるかという懸念が残ります。

介護保険と障害者施策の適用関係

「障害福祉サービス」の法的根拠は「障害者総合支援法」であるのに対して、「介護保険法」を法的根拠とする「介護保険」は保険であり、福祉とは一線を画すべきものです。

月刊ノーマライゼーション「障害者の福祉（2000年5月号）」の遠藤浩氏の記述では、介護保険制度の創設に際して、障害者施策のうち介護サービスに係るものを介護保険に移行するかどうかについては、身体障害者福祉審議会における審議等を経て、①障害者施策は公の責任において公費で実施すべきとの関係者の認識が強かったこと、

②障害者の介護サービスの内容は高齢者に比べて多様であり、仮に介護保険の対象とする場合にその範囲をどうするか等なお検討すべき点も少なくないことから、当面、障害者施策の枠組みの中で引き続き公費による対応を図ることとされたことと述べて

います。この結果、介護サービスの体系としては、従前の老人福祉施策及び障害者施策と同様に、介護保険と障害者施策という二つの制度が並立することとなりました。介護保険においては、被保険者の範囲を40歳以上の者とし、被保険者が要支援または要介護状態となった場合は保険給付として介護サービスが利用できることとされています。

平成27年度全国重症心身障害福祉施設協議会から

平成27年5月に新潟県で開催された全国重症心身障害福祉協会施設協議会に於いて、行政説明や医療問題検討委員会等の協議が行われました。厚生労働省からの行政説明では、事業種別ごとの収益率（％）を勘案して報酬額の調整を行った結果、一般企業の収益率が2〜3%であったのに対して、障害児・者事業全体の収益率は9.6%と高く（協会医療問題検討委員会の見解は「実態は実際とはかけ離れている」）、従って特に収益を挙げた療養介護事業、例を挙げると「療養介護サービス費（I）で定員81人以上の場合は857単位から815単位（△42単位）（△4.9%）に減額する」というものでした。

この動向に対して、平成26年11月14日付で日本重症心身障

害福祉協会理事長岡田喜篤氏の名で厚生労働省に以下の内容の「要望書」が提出されましたが、採用されませんでした。

「要望書」の主な内容は、【平成26年の診療報酬改定において、「超重症児（者）」入院診療加算・準超重症児（者）入院診療加算は、一般病棟（障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料及び特殊疾患入院医療管理料を算定する病棟又は病室を除く）においては、入院した日から起算して90日に限り算定する。当該取扱いについては、平成27年4月より適用する。」とされており、医療型障害児入所施設において小児入院医療管理料4ないし5の算定を行っている場合については、平成27年4月以降も、入院期間が90日を超えても超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）入院診療加算の継続的な算定が可能とさせていただくよう、要望いたします。】というものでした。

おわりに

重症心身障害児（者）の生命の尊厳や生存権が守られることや、ご家族の不安を解消し、安定した医療福祉事業が維持されるためにも日本の医療福祉施策の動向に注目していくことが大切だと思っています。

ご協力ありがとうございました

(2015年7月1日(9月30日) 敬称略)

【法人会計】

一般献金
山田眞士、西南学院大学聖歌隊、チャペルクワイア、日本基督教団福岡南教会婦人会、栗田昌直、草場正子、安部聖子、主の十字架クリスチャンセンターの冠福岡教会、西南学院高校インターアクトクラブ、西南学院高等学校図書部、豊前キリスト教会、鷺見緑郎、活水同窓会北九州支部、手作品売上げ、野田和子、甲斐悦江、日本バプテスト連盟、(学)西南学院高等学校母の会、新藤佐知子、井本義孝、松岡順之介、室東福岡幼稚園保護者の会、粕屋バプテスト教会、平川博・成、九州大学Y.M.C.A名島寮、土谷真理子、富野バプテスト教会、窄口正一、スパー信、鮫島隆之、啓、又野貴志、社会福祉法人キリスト者奉仕会、花原章二、木下孝之、中尾清寿、久原財産地管理会会長阿部賢一、名雪賢一、安成由岐子、木下康一、久山町上久原区、久山町東久原区、久山町中久原区、久山町下久原区、福岡県福岡特別支援学校、本田光、大宰府キリスト教会、岩橋あゆみ、堀内浩子、田中ハル子、大谷克子、特定非営利活動法人はくちょうの会森英樹、牛房賢剛、香蘭女子短期大学、すみれの会代表川崎律子、松枝秀明、くずめよし

指定献金

福元孝三郎 (以上500,000円)

建築献金

山田雄次、社会福祉法人自立の里保護者会、藤永寅彦・ウラ

子、井手加奈子、鳥飼バプテスト教会、粕屋バプテスト教会、久山療育園来久の会、中久原区長森實二夫、河島美穂、井上清美、原口悦子、東八幡キリスト教会、藤田英彦、新藤佐知子、高橋香代子、水曜日ボランティア、稲永正敏、甲斐悦江、福田靖、志満秀武、岡英治、方城療育園、筑紫野二日市キリスト教会、西福岡のぞみ伝道所、五斗美代子、久山療育園、保護者会、村津俊博、福岡医療関連協業組合、又野貴志、古賀和男、因勲、社会福祉法人キリスト者奉仕会、福本順子、川野直人、社会福祉法人高翔福祉会、福岡県立福岡特別支援学校、新藤賢恵、自動販売機売上献金、古池大作、久山療育園献金箱、榎谷悦子、高野瀬竜彦、西部クリイ代表取締役吉田昌宜、日本バプテスト連盟出会の旅、嘉久明子、深見達弥、古川新、齋藤剛毅、テレコールNEO(株)、山口正夫、西南学院バプテスト教会姉妹会、甲斐丈士、井手伸昌、牟田逸雄、大高勝夫、井手伸玄子、吉見末男、岡本好枝、修一、河島美穂、今中富美子、副島徳恵、安部聖子、松藤一作、塚原千鶴子、船津丸泰、林俊明、伴敦子、佐護美津子、小副川時子、広瀬久美子 (以上4,797,452円)

施設献金

くろみの木、西南学院高等学校生徒会、古賀成、南谷理恵、安部田鈴香、佐藤徳、田上洋子、松尾貴光、渡辺久子、草場正子、田中三千男・由美、羽田有子、山口久美・英明、松尾勇一、矢津真澄、池田文章、大原定行、大原信行、久山療育園保

献品

福岡大学医学部看護学科タオル、福岡友の会(エプロン)、嘉久明子(梨)、匿名(冷蔵庫)、福岡キリスト教会(バスケット)、恵泉バプテスト教会(女性会台拭き)、太田キリスト教会(タオル)、福岡県理容組合粕屋支部(タオル)、瑞穂キリスト教会(女性会タオル)、吉見小雪(タオル)、JA粕屋企業協力会(車椅子)

【バプテストコロニー友の会】5月分街頭募金、8月分街頭募金 (以上64,393円)

開園祭献品

(株)ヴェガ、(株)オリエンタル歯科甲元、(株)如水庵、(株)フクエキ、(有)アイアイささぐり、JA久原支所、JA山田支所、青木常郎、朝倉光治、安倍和子、阿部初美、安里美沙希、アンチータ、碓俊行、泉清隆、井上ひろみ、因勲、梅木光男、梅津逸子、大重佐和子、大塚利一、大坪敬子、岡本好枝、荻本光雄、鬼塚公認会計士・税理士事務所有志、甲斐悦江、粕谷陵、粕屋理容組合粕屋支部、金子マスキ、鎌倉ツタ子、嘉村由香、河鍋好一、川原大輔、城戸文子、九電工、金永真知子、草場貴子、草場美恵子、楠元美喜子、国崎妙子、窪田次男、久保山敬子、古賀クミ、古賀信行、コカ・コーラ(株)小島雅子、後藤香織、米工房・井上、小森悦子、鮫島経男、佐伯年子、佐伯マチ子、堺真信、サニクリーン九州、早良

キリスト教会、新藤賢恵、塩崎しおり、汐田美賀、清水敦子、下条明日可、庄林洋子、末田初恵、須田美子、曾根崎加代子、園田敦子、平京子、第一保険木村、高木美鈴、高倉博子、高瀬孝介、高林一二三、高村利津子、武原良江、武村亜紀、田中節子、田宮宏介、樽谷由美子、塚元あすか、塚本恵美子、篠壽美子、土居祝男、土居務、徳淵幸加、中根史子、中山裕子、長井妙子、長倉小百合、中山キヌ子、中山徹、奈須砂智子、奈良野田和子、野中尚子、羽田カタエ、花田京子、林慎太郎、原田太一、原田美香、東福岡幼稚園、百本利雄、平川成、博防、深見達弥、福岡医療関連協業組合、福岡丸本(株)、福田一枝、福田美穂、福田靖、馬原哲治、松崎義和、松田真理、松永将和、水野隆代、三壺紗織、南谷なつえ、宮内千鶴子、宮崎信義、宗廣清彦、宗廣誠、村井未来、村上和美、村上里奈、村川加奈、村津俊博、めだか共同作業所、森由香、守田孝子、ヤクルト、安川タクシー、山口正夫、山口吉昭、山崎眞澄、山下昭恵、山下泰美、山田いづみ、山野祥子、山本俊次、矢山康子、矢山良隆、夕田美加、横山友美、吉見多恵子、吉村豊子、吉本法生、和白バプテスト教会、渡辺まどか、渡辺まどか母、福田美穂、匿名

【バプテストコロニー友の会】

友の会Tシャツ、常盤台バプテスト教会、田隈バプテスト教会、篠栗キリスト教会、恵キリスト教会、吉田圭子、椿原喜代子、新藤佐知子、古池節子 (175,851円)

職員の異動

【退職】
▽朝倉 光治(看護師)9/30付
▽足立 裕子(介護福祉士)9/30付
【採用】
▽本多 小百合(看護師)9/7付

献金申込送金先

社会福祉法人
バプテスト心身障害児(者)を守る会
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
久山療育園重症児者医療療育センター内
☎(092)976-2281(代)
《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】
《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888
個人、会社共に免税の対象になります。
メール: hisayama@mpd.biglobe.ne.jp





藤田 英彦

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

マタイによる福音書1章23節

新約聖書の1頁に「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった」とあります。「次第は次のようであった」のギリシャ語の文法表現は「かつてあった」そして「今もあり続けている」という表現です(「既婚」という表現が既に結婚している。そして今も結婚し続けているというような)。

ヨセフは「正しい人であったので」愛する婚約者の懐妊をどうしても許すわけにはいかず、本当に苦しんだのでしょうか。秘かに縁を切ろうと決心します。その時、天使が夢に現れて「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マ

リアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によつて宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。」と告げます。そして「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエル」という宣言を告げられます。これは、神の天使による一方的な宣言です。新約聖書の1頁に出てくる大切な言葉です。

多分、ヨセフは「正しい人であったので」相当悩んだに違いありません。ここで、神の御旨を受け入れる出来事は「正しい人」であったと言うことでなく、ただ、夢に現れた御言葉に従って愛する人を「許して受け入れた」という出来事です。随分昔のノーベル賞作家ライゲルクヴィストの小説に「愛はゆるしによつて」という題がありました。

また、「インマヌエル」(神は我々と共におられる)は、新約聖書の最初から、マタイ福音書の最後28章20節、新約聖書の最後、ヨハネ黙示録22章21節に至るまで、貫かれている最も大切なメッセージです。

メモ帳

- 7/1「重症者ホームひさやま」開設
- 7/3「重症者ホームひさやま」献堂式
- 7/7七夕行事
- 7/9福岡県福祉労働部障害者福祉課来園(2名)
- 7/10認定看護師研修会開講式(受講者他合計30名)
- 7/11ボランティア講習会(12名)
- 7/12東久原夏祭りみこし
- 7/16虹の家スタッフ来園(2名)
- 7/17福岡特別支援学校終業式
- 7/21西南学院高校見学・ボランティア(35名)
- 7/21グループホーム見学(糟屋六町相談支援事業所 12名)
- 8/6やまびこ医療福祉センターより見学 理事長 他(8名)
- 8/7バプテスト隣人に出会う旅来園(21名)
- 8/17コロナ友の会 ワークキャンプ(8/19 14時まで)
- 8/20福岡県看護協会訪問看護師実習(2名)／筑紫野市二日市地区民生委員見学(7名)／福岡医療短期大学来訪(3名)
- 8/21テルベルトグリーンによる演奏会
- 8/28九州地区学生YMCA夏季学校見学(25名)
- 9/1特別支援学校始業式
- 9/2久山町町長他3名視察
- 9/3粕屋保健所への定款変更補正書類提出
- 9/4福岡女学院看護大学実習(2名)／ゴスペル音楽会4名来園
- 9/5認定看護師研修会 研究発表・修了証書授与式(修了者12名)
- 9/11西南学院中学保護者会ボランティア(19名)
- 9/13開園祭保護者 作業日
- 9/14フェリス女学院大学OGによる演奏会／JA粕屋農協より車いす2台贈与(5名)
- 9/15看護学生見学2名／舞鶴幼稚園保護者会ボランティア(24名)
- 9/17西南教会女性会ボランティア来園(11名)
- 9/18認定看護師研修 通所実習(2名)
- 9/23第39回開園祭
- 9/28西南学院大学社会福祉土実習(10/30まで)(2名)

支援者からの声 第十四回

愛の御手が働いて

古賀バプテスト教会牧師

金子 敬



ピリピ人への手紙2章13節「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされることろだからである。」(口語訳)

学生時代にクリスチャンになっていた私は、卒業と同時に大牟田市にある会社に就職しました。そこで通い始めた大牟田バプテスト教会には付属「光の子幼稚園」があり、その中で、と言っても牧師館の一室を用いて行われていたのが「ゆり組さん」と呼ばれていた障害児のクラスでした。私が仕事帰りに教会に立ち寄ると、もう夕暮れになってくるのに、「ゆり組さん」は活動しているのです。そして、その有り様は凄まじいのです。2、3人の障害児が2、3人の

年配の女性たちと取っ組み合っているのです。騒ぎまわっている子どもたち、嘔まれたり、引っ掻かれたりで傷だらけの先生?たち...これが私と障害児(者)との初めての出会いでした。その現実には大きな衝撃を受けたものです。

「こんな遅い時間まで保育をされるのですか」と尋ねると、叶昌全牧師は、「お預かりすること、親御さんに少しでも自由な時間を作ってあげたいのです」との答えが返ってきました。更に、牧師は障害児も親御さんたちも安心して暮らせるコロナー建設の必要を熱く語って下さるのでした。後で知ったのですが、この頃、叶昌全牧師、川野直人牧師(田隈教会)、宮本要牧師(東福岡教会)ほか、大牟田教会の有志が発起人となって「コロナー友の会」が発足し、今日の久山療育園に結ばれる大事業への祈りが始められていたのです。

当時の大牟田教会青年会には多くの青年たちがいて、連れ立って近くの三池山や隣町の小岱山に出かけ、山歩きをしながら将来の幻などに会話を弾ませていました。ある時、青年会で小岱山の麓に住んでおられた教会員のK兄の家にお邪魔して夢を語りあう機会がありました。その時、K兄が「自分の持山に真言宗の札所を作る話があつて、大金が入るかもしれない...」と言われた時のことでした。咄嗟に、私たちは「Kさん、それはダメです。そのような土地があるならコロナーのために提供して下

さいよ」と、叶先生の抱いておられたビジョンを思いきりぶつけたのです。

その後、どのような経緯があつたかは分かりませんが、K兄からこの土地が提供され、1971年8月に、その土地で、雑木を伐採し、地ならしをする、第一回ワークキャンプが行われたのです。当時、私は西南神学部に通う神学生でありましたが、勿論これに参加させて頂くことになり、交通費自弁、弁当持参で大牟田教会に泊まり込み、一緒に汗を流すことになりました。今考えると、あれが「ボランティア活動」というものを体験した最初だったのでは、と想い返しています。

神さまから起こされる「願い」は必ず実現へと導かれます。その後、小岱山が熊本県側にあること、発起人のすべてが福岡県に住んでいることなどがネックになり、この土地でのコロナー建設は頓挫します。しかし、神はほむべきかな!現在の久山町がこの計画に乗って下さる事になるのです。当時の久山町は、独り暮らしの老人全世帯にも電話を設置したり、たった二人の障害のある町民のために、その庁舎全体をバリアフリーの建物にするなど、全国から注目を集める福祉の町づくりに取り組んでいたのです。こうしてK兄の提供した土地を担保に、久山町に「バプテストコロナー久山療育園」の建設が始まり、第一回ワークキャンプから数えて5年後の1976年8月27日に「久山

療育園」献堂の運びとなったのです。この間、諸教会内にも「バプテストコロナー友の会」づくりが進められ、また福岡天神では街頭募金で声を張り上げ(大相撲九州場所にはハワイ出身のバプテストである高見山関も街頭に立ちました!)、幼い子どもからお年寄りまで、ありとあらゆる人々が、無償でこの活動に加えられ、喜びの汗を流したのです。

三人の牧師を中心に、祈りの中から「友の会」が設立され、「愛の手を」第一号が発行されたのが1967年クリスマスですから、もうすぐ50周年を迎えようとしています。この間、「久山」が日本の福祉事業に証ししてきた足跡は、汗と涙の足跡であり、だからこそ栄光に輝く足跡です。一言で言うならそれは「ボランティアの足跡」でした。手弁当だから出来ること、身銭を切るから出来ることも、引き継がれる大切な精神でありましょう。この精神こそが「久山」を「久山」たらしめているのです。

実際に、神は、私たちの心のうちに「働きかけ、願いを起し、実現に至らせる」お方なのです。「愛の手」は私たちが差し出す手である前に、神御自身が私たちに差し出してくださった御手であつたと言えましょう。ハレルヤ!

クリスマス献金のお願い

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(マタイによる福音書第1章23節)

神様が私たち一人一人を愛し、その罪を担い、私たちに使わして下さったイエス・キリストのご降誕を共にお祝いしたいと思えます。

今年も皆さまのお支えに感謝をし、クリスマスのお祝いをいたします。詳細は後述の通りです。ぜひとも足をお運びください。

クリスマス献金の振込用紙を同封させて頂いております。皆さまのご協力をどうぞよろしく願います。



バプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

第26回 久山療育園
ワークキャンプ報告

仙台長命ヶ丘キリスト教会

金丸 真

今年も夏の恒例行事、久山療育園ワークキャンプが、「あなたも隣人になってみませんか?」というテーマのもと、8月17日(月)～19日(水)の2泊3日で行われました。26回目となる今回のキャンプには、0才から86才の、述べ107名の方々が参加してくださいました。このように、様々な年齢層の方々がワークキャンプに参加してくださっていること自体が大変意味のあることだと思わされます。幼児から高齢者まで、それぞれ一杯の思いと働きとを差し出して、重症児者の方々と共に生きようとする。これが、ただの奉仕活動を超えた、「命のふれあい」が起るキャンプとなっていることの秘密なのかもしれません。

今年3日間、幸いにも天候に恵まれました。雷雨に見舞われたり、猛暑の中でワーク活動をしたりという厳しい年が続きましたが、今年は天候が守られました。また、利用者の方々のふれあいの時間には、手作りの素敵なブレスレットや髪飾りを身に付けて、利用者の方々と一緒にフォークダンスを踊りました。車イスを上手にエスコートしながら踊るフォークダンス。私にとっても初めての経験で、とても新鮮で楽しい時間を過ごすことができました。また、利用者の保護者の方々の話を聞く時間には、久山療育園が重症児者にとつての病院、家庭、学校であることの意義、サポートの豊かさを改めて気付かされ、職員の方々の日々のお働きの丁寧さに感心させられました。また、このような学びの時間だけでなく、120人を超える規模のバーベキュー、希望者による早朝魚釣り大会など、楽しいプログラムも盛り上がりしました。毎年プログラムを検討し、より良いワークキャンプになるようにと、少しずつ改善していることの積み重ねが活きてきているように感じます。

また、今年、在宅支援棟が開設された直後のワークキャンプでしたので、施設見学の間、在宅支援棟の中も説明を聞きながら見て回ることができました。きれいで素敵な在宅支援棟を見学しながら、久山療育園が、入所されている重症児者だけではなく、在宅の重症児者とその保護者の方々の声に応えようとしている、その姿勢と熱い祈りを感じ、この久山療育園の働きを支えたいという思いが新たにされました。このワークキャンプではワーク活動も一生懸命にしますが、それだけではなく、このキャンプに参加することによって重症児者の方々が置かれている状況や、久山療育園の働きを知ることが出来ます。このことによって、私たちは新たな隣人性へと拓かれるのだと思います。このワークキャンプに参加している子どもたちも肌で隣人性を学び、豊かに成長していく様子には、毎年驚かされます。そういう意味では、このワークキャンプは、この久山療育園で子どもたちを育てていくという運動でもあるのだと思います。ぜひ子どもたちをワークキャンプに送り出してください。来年も沢山の方々が参加されますように祈ります。

バプテストコロニー友の会からののお知らせ

「第18回久山療育園のために
チャリティコンサート2016」

来年も、2016年2月27日(土)午後2時～4時に、西南学院大学チャペルにて、久山療育園のためのチャリティコンサートを開催します。今回、特別に御願ひして来ていただくことになりました。江原望氏(日本フィルハーモニー交響楽団チェロ首席奏者)、そして、昨年、大変好評を博したデュオHue(RKBラジオで毎週土曜日の朝の番組に出演中)、そして、来年の西南学院創立100周年記念祝賀会に参加が決定し、一段と磨きがかかってきた、「西南のゴスペルクワイヤ」の皆さんの参加が決まっております。

入場料1000円で、チケットは、福岡・北九州のキリスト教会や久山療育園他で購入することができます。当日の会場での販売もあります。是非、お誘い合わせの上、ご参加ください。



Hueのお二人

バプテストコロニー友の会
年末街頭募金のお知らせ

今年も福岡市天神地区におきまして、下記日程で街頭募金を行います。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

| | |
|-------------|---------|
| 12月19日(土) | 13時～15時 |
| 12月20日(日) | 13時～15時 |
| 12月21日(月) | 13時～15時 |
| 12月23日(水・祝) | 13時～15時 |
| 12月24日(木) | 13時～15時 |
| 12月25日(金) | 13時～15時 |
| 12月26日(土) | 13時～15時 |

※日程につきましては雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承ください。

場所 福岡市天神大丸デパート前
問い合わせ・連絡先 久山療育園 092-976-2281



めぐみ棟の活動!!!

テレベルトグリーン 演奏会

9月4日に交流ホールでテレベルトグリーンテレベルトグリーンの演奏会が行われました。演奏会ではどのような歌が歌われるのか「ドキドキ」「ワクワク」しており、演奏が始まるのをとても楽しみにしていました。演奏が始まるとすぐに、テレベルトグリーンテレベルトグリーンの皆さんの歌声に惹きこまれていきまし

た。私は、生演奏を間近で見ることがなく初めてで、歌声を聴いたときはとても感動しました。

演奏が始まると、自然と手拍子が聞こえ始めて、とても賑やかになりました。利用者の方々は、楽器の音に合わせて、リズムをとりながら楽しく演奏を聞いていました。演奏を聞いていくうちに、なんだか心が「ホッ」と温まるような気分になりました。気がつく

じました。テレベルトグリーンテレベルトグリーンの演奏会に参加でき、とても楽しい時間を過ごすことができました。
(めぐみ棟 保育士 石橋)



みなさん知っていますか

めぐみ棟・ひかり棟 名称の由来

久山療育園は、昭和56年、念願の増床が叶い、2病棟になりました。『各病棟の名称はどうする?』と言う事になり、色々な案が出されましたが、「めぐみ棟」「ひかり棟」に決定しました。名付け親は、当時の養育部長故・鎌田洋二先生です。讚美歌87番から、「悩み行き詰っている時、めぐみの光が、闇を照らしてくれます。神様は愛だからです。困難な時にも神様の愛を忘れず、私たちも神様を愛して行きましょう。」と、付けて下さいました。これから、厳しく困難な状況に直面することが多々あると思いますが、私たちは自分出来る事を精一杯、心を込めて行い、「めぐみ」の「ひかり」で照らして下さいる神様の愛を、心から信頼していける

といいですね。
(ひかり棟介護福祉士 金子)

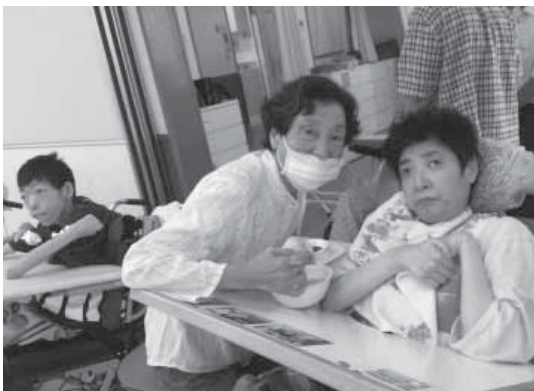
ひかり棟の活動

お母さんといっしょ

大好きなお母さんです。お母さんは、福岡市の早良区から、自転車・地下鉄・電車・バスを乗り継ぎ、片道2時間かけて、毎週会いに来てください。(何日も続けて来られることもあります。)

私の耳元で歌をうたったり、お話をしてくれるので、嬉しくて、私も一緒にしゃべります。お母さんに、「おいで。」と呼んでもらえると、とても幸せな気持ちで笑顔になります。 (時々聞こえないふりもします☆) ご飯の時は、手を握ったり、身体を触ったり、スキンシップを楽しみます。大好きなお母さん、あまり無理をしないでネ☆

(新藤 佐知子さん)



アートムジカ

10月2日、アートムジカの方々がパフォーマンスをしに来て下さいました。今回のテーマは「アートムジカ・カレンダー」。一年間を月毎に、様々な方法で楽しく表現されていきました。どの月も元は同じ模造紙ですが、様々な表現方法によって、どの月も全く異なる、絵本や紙芝居のように見えました。「次は何の絵だろう?」「次の仕掛けはなんだろう」と、常にわくわくしながら見る事が出来ました。

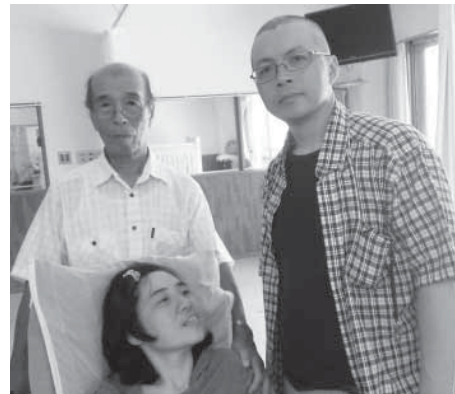
また、絵だけではなく、音楽もとても素敵でした。優しいピアノの音色に合わせて、澄んだソプラノが病棟内に響きわたるので、みなさん自然と、その歌を口ずさんだり、リズムに合わせて身体が動き出していました。

目で見て、耳で聞いて、心で感じる、とても素敵なパフォーマンスに、利用者の方々も職員たちも、みなさん自然と笑顔になっていたようでした。

(ひかり棟保育士 佐藤)



私の家族



ウフフ、私のイケメン兄さんです。兄さんは東京に住んでいます。お兄さんは必ず私に会いに来てくれます。だって、美人で最愛の妹ですから(当然?) お兄さんはとても優しいのですが、一度私の事を「もう○○才のおばさん」って言ったんですよ!超シヨック、ひどすぎ☆でも大好き♡自慢のお兄さんです。今日はお家でお留守番のお母さんは、私ソックリ、凄くきれいです☆お料理もお裁縫もとても上手、最高のお母さんです。大・大・大好き☆あつ、お父さん・忘れていませんヨ、私専属のカメラマンで、ナイスショットは数え切れない位あります。勿論大好きです!お父さんの顔を見ると、うれしくてホッとします。いつも会いに来てくれて、本当にありがとうございます。

(横溝 玲子さん)

福岡イオンモールへお出かけ

(中山 剛さん・吉原 加代さん)
9月16日、剛さん、加代さん、剛さんのお兄さん、スタッフ3名の総勢6名で、福岡イオンモールへ繰り出しました。(剛さんのお兄さんは、この日のために京都から駆けつけて下さいました。感謝!)
加代さんは出かける前から徐々にテンションを上げ、現地に到着した途端、「キヤー☆」と大絶叫。剛さんは少々緊張気味でした。

映画館、ショッピングモール、ゲームセンター、大勢の人たち、とても賑やかでいつもと違う雰囲気ワクワク・ドキドキ・

剛さんは、お兄さんにお揃いの帽子を買ってもらい、ご機嫌、嬉しそうです。加代さんも、ちょっとおしゃれなお洋服をお買い上げ、ご満悦です。

本日のメインイベント☆デザートタイムには、二人ともサーティワンデコレーション付きアイスをペロリ、美味しかったです♡

あつという間にお帰りの時間となり、進撃の巨人?の前で記念撮影後、帰途につきました。帰りの車中では疲れた様子を見せる事なく、無事帰園することができました。また、お出かけできるといいですネ☆

(ひかり棟介護福祉士 金子)



えへっ!!



どうだろ

通所の活動!!!!

しおり店OPEN!

今年の開園祭で通所はしおりのお店を出店しました。

利用者さんと一緒に作ったしおりは約300枚。お散歩の時に拾った葉っぱや花びら。皆でちぎった花紙や紙吹雪を透明のフィルムに挟んで作りました。光にかざすと柄が透けてとても綺麗です。

しおりのお店は通所の入口にOPENしました。お店の両脇にはグループホームの利用者さんが作った紙のランプシェードを飾り、ほんのりとした灯りが良い雰囲気を出してました。

販売員は通所の利用者さんが交代で担当し、お客様からお金をいただいたり、おつりをお渡したり、品物を手渡したりと大忙しです。

皆で「いらっしやいませ〜!」と大きな声でアピールした頑張りが功を奏して、続々とお客様が来られ大盛況!色んな柄があり、皆さんどれにしようかと楽しそうに手に取って選ばれていらっしやいました。

「頑張ってるね!」「どうやって作ったの?」「上手に作れたね!」など、たくさんのお声掛けをしてくださり、販売していた利用者さんも笑顔いっぱいでした。

しおりが山積みだったカゴの中はあっという間に空っぽになり、しおり

の販売を通じて、たくさんのお客様や病棟の利用者さんに触れ合えた忙しくも心温まる貴重な時間となりました。

お越しいただいた皆様。楽しいひと時をありがとうございました。またのご来店をお待ちしております!!

(通所保育士 狩野)



いらっしやいませ!



どれにしますか?

外来 宇そら宙

「電車に乗ったよ」

10月21日少し肌寒い晴れた朝、「おはよー!」「お・は・よー!」次々と篠栗駅に元気な笑顔が集まってきました。そう!今日は皆が待ちに待った園外活動の日。ここから博多駅まで15分間の電車体験です。ゆっくり改札口を通り抜けるとホームに集まってみんな写真のパチリ!線路の向こう側にはお散歩に来ていた保育園の子ども達が笑顔で手を振って見送ってくれました。「ガタ〜ンゴト〜ン」ゆっくり電車近づいてきます。宇宙のみんなは電車を見て笑ったり、不思議そうに見つめている子も。さあ、いよいよ発車です!「ガタ〜ンゴト〜ン」みんな揺れます。「ガタ〜ンゴト〜ン」お母さん達も揺れます。みんなびっくりするかなあ〜と見ていたら、ぞ〜んぜん平気!窓の外に移り変わる景色を見て喜ぶ子やぼんやりと揺れを楽しむ子。とってもリラックスして楽しめていました。その後みんなで食事をした後に博多阪急を散策して一日楽し

く過ごせました。来年はどこに行こうかな?楽しみにしててね。(通所保育士 原田)



電車で揺らいい気持ち



篠栗駅にて

通所で頑張っています！

吉良由梨子さん

吉良由梨子です。2卵性の双子の姉で、12月17日で19歳になります。アンパンマンと歌が大好きな女の子です。今年、直方養護学校を卒業しました。4月から通所でお世話になっています。

実は以前から久山療育園のことは知っていたのですが、実際に来たのは学校の職場実習の時から初めてでした。毎回、活動があるのが嬉しいです。先日も、大好きな散歩に行ってみつけた花で冠を作ったり、18歳の足型も制作したりと、楽しそうに参加出来

ていることが嬉しいです。大好きな歌もたくさん聞けます。中1・高1と手術を乗り越えるたびに体重が増えた由梨子ですが、元気に過ごせている事が一番うれいす。由梨子を見かけたら、是非声をかけてください。きっと、笑顔がプレゼントできると思いますから・・・。これからも、元気に楽しく過ごしたいと思っています。どうぞ、皆様宜しくお願いします。

(吉良 母)



皆さん宜しく

リハビリテーション課の活動

「重症心身障害児者に対する理学療法」

私は当園に着任する前は屋久島で生活していました。そこでは満点の星空を見て、川のせせらぎを聴き、雨上がりの森の匂いをかぎ、山海の恵みを味わい、風の温かさを肌で感じる事ができました。この素晴らしい世界を五感で感じ・意識することで、人として生きるとはどういうことか考えさせられました。

重症心身障害児者の方と関わる中で、私にできることは皆さんが世界を感じ・意識する手助けをすることだと考えています。つまり、物事を敏感に感じとれるように身体や環境を調整するということです。

人はある刺激に対して身体の一部が活動性を調整して反応します。例えば、何かを聴くときに耳を澄ましたり、ヨーイドンの合図で素早く走り出せるように身構えたりします。しかし、重症心身障害児者の方の中には、刺激に対して活動性が低くて反応できなかつたり、

逆に高すぎて反応しすぎたりします。それをちょうど良い活動性に調整するのがです。

活動性がちょうど良い状態になると、今まで気づくことができなかった花の香りや、仲間の表情などを感じ・意識することが出来ます。私は何気なく過ごしている日々の中で、小さな変化を感じ・意識することで幸せだと思えることがあります。私は皆さんとその小さな幸せを共に感じ、共に笑ったり泣いたりしていきたいと願っています。

(理学療法士 入岡)



重症者ホームひさやまだより

皆で楽しんだ流し素麺と放生会

重症者ホームひさやまも、七月の開所から早いもので五ヶ月が経とうとしています。この間に行なわれた、活動の一部を紹介させていただきます。

八月に行なったのは「流し素麺」。

暑い日が続く中で、屋外で行なう活動が難しい時に涼しさを求めた活動として計画・実施されました。

幸い、天候にも恵まれ気温も高くならず、屋外の風と竹を流れる流水が清涼感を演出し、御好意で頂いた食材と主役の素麺に、入居者の皆さんが笑顔を見せてくれました。

流れる素麺は、お箸で取るのが大変で目の前を過ぎてゆく素麺を見て嘔然としたり、少し残念な顔をしたり、楽しくなって笑ったりと色々な表情を浮かべていました。スタッフの協力もあり頑張った皆が素麺を取ることが出来ました。各自で好きな薬味をつけ美味しく頂きました。涼しく屋外で食べる素麺は皆が気に入った様で予想より多くの量を食べ、楽しく過ごせたようです。

そして九月、久山療育園の通所の園外活動にホームの職員も一緒に参加しての「放生会」、入居者全員元氣でお出かけしました。

この日も天気は晴れ、バスに乗っての移動は久しぶりです。ホームとしては初めての園外活動となり、少しの不安と大きな期待でドキドキのお出かけになりました。皆なお出かけ用の服に着替え、バスに乗り込む時は良い笑顔をしていました。

車内で注意事項を聞きながら三十分程で無事に現地へ到着。箱崎宮は沢山の人が賑わいを見せ、参道は右を見て左を見てもお店が並び、美味しそうな匂いや楽しそうな声でいっぱいです。本殿にお参りに行く間は目移りの連続で皆が周りをキョロキョロ見回し「昼食は何を食べよう?」「玩具は何を買おう?」と保護者やスタッフと話している姿が印象的でした。

お参りの前には手を清めます。冷たい水に少しビツクリ。お賽銭を投げて静かにお参り。後でお願いについて聞いてみましたが「秘

密」との事。無事にお参りが終わり、参道を戻りながら昼食やお土産を買います。中々、昼食が決まらない方も居れば、即決で食べ物を買う方、玩具や籤で遊ぶ等、買いたい物に入居者の皆さんそれぞれの性格が出ていました。昼食は、福岡教会の皆様のご厚意で、場所を提供して頂き皆で揃って頂きました。普段とは少し違う「焼きそば」「から揚げ」「フライドポテト」等のB級グルメに大満足の様子でした。

帰りの車内は、疲れたのか眠そうにしていた方も居られました。楽しかった事を思い出して笑う賑やかな声も多く聞きました。ホームが稼動して半年足らず、活動やお出かけもまだまだ、手探りの状態です。今後も色々な事にチャレンジ出来る様にスタッフ一同頑張っていきたいです。

(生活支援員 土居)



笑顔いっぱい、おなかいっぱい、思い出さばいの修学旅行

心地よい秋晴れの中、10月14日と21日に高等部3年生のみんなで修学旅行に行ってきました。

14日グループは、内田裕美子さん、山口久美さん、矢山一美さん、矢津里恵子さんの4名と、ご家族のみなさん、森看護師さんと学校職員の総勢16名。翌週の21日グループは、池田三國さん、岡本修一さん、古賀豊さんの3名と、ご家族のみなさん、塩川看護師さんと学校職員の総勢13名でした。

今年度の目的地はベイサイドプレイス博多。「①船に乗って潮風や揺れを全身で感じる」、「②博多ポルトタワーから眺める景色やベイサイドプレイス博多での昼食やショッピング、散策をそれぞれ楽しむ」という2つの目標を掲げて修学旅行に臨んだ高等部3年生のみなさん。

まずは、福岡市営渡船に乗って西戸崎から博多までの海を渡るルートにみんなドキドキ。15分間の航路を友だちやご家族、先生たちと笑いあったり、おだやかに行きすぎる景色を見たりして過ごしました。次に向かった博多ポルトタワーでは、地上70メートルの展望室からの360度の眺めを満喫しました。みんなで楽しみにして

いたレストランでの昼食はどのお料理も期待どおりに美味しく、デザートも堪能しました。また、お店の丁寧な対応に大満足な昼食時間となりました。食後の自由時間は、お土産を買ったり、海の風や香りを感じながら休憩や散策をしました。帰りのバス車内は「楽しかった!」という声であふれていました。楽しい思い出いっぱいのあっという間の1日でした。

最後になりましたが、保護者の皆様をはじめ、引率看護師さん、病棟スタッフ、グループホームスタッフの方々には大変お世話になりました。おかげで安心して旅行することができました。また、お忙しい中、職員を同行させてくださった久山療育園に感謝いたします。ありがとうございました。

(福岡県立福岡特別支援学校訪問教育職員一同)



「第39回開園祭報告」

センター長 宮崎信義

はじめに

久山療育園重症児者医療療育センターの開園祭は、創立後第39回の開催が由来しました。これまでの主なる神様のお導きに感謝し、ご支援して下さる皆様ボランティア、保護者、職員など多くの方々の祈りの御支援に感謝しています。開園祭で私たちは、「重症心身障害児(者)と共に」という合言葉や創立理念を想起し、また継承されている無形の「重症児者療育のおおりに」を確認する機会となります。このような思いで、第39回開園祭について「愛の手を」の誌面を通して御報告申し上げます。

開園祭テーマ「在宅支援センター事業の推進」
第39回開園祭のテーマは、「在宅支援センター事業の推進」と致しました。2008年8月に竣工した施設全面改築に続いての将来計画「在宅支援プロジェクト」が、今年7月から「在宅支援センター」の開設と事業開始で実現に至ったからです。私たちは主の御計画によって示された「在宅支援プロジェクト」を推進し、今年7月1日に「在宅支援センター」(在宅支援棟及び「重症者ホームひさやま」)の開設が成りました。このビジョンはここからスタート

トしましたが、在宅重症心身障害児(者)の必要に應える内容の向上と安定的な運営が肝要です。 「在宅支援センター事業の推進」という思いを強くしたわけです。
これは1976年の創立当初に示された「地域の中心に位置付けられること」「新しい社会福祉の拠点である」こと、すなわち「地域に開かれた施設」の実践でありました。全国には約43,000人の重症心身障害児者がおられ、その中には約29,000人という多くの在宅重症児者がおられます。「在宅支援センター」は、粕屋地区・宗像地区・筑豊地区を中心とし、政令市福岡市の東部を含む背景人口約100万人からなる地域の方々の在宅障害福祉に寄与しその責を負うものです。
センターの第一の要素である「在宅支援棟」の役割として特筆すべきことは、次に述べる在宅支援事業を繋ぎ、地域福祉や地域連携の調整に当たる働きです。具体的には、①通所事業・短期入所事業・訪問事業・相談事業の実践、調整機能。②自立支援協議会、福岡県地域連携会議との交点。③地域連携機能として、施設・病院と社会資源(医療・福祉・学校)の連携や、

新生児集中治療室(NICU)の後方支援にもお役に立てれば幸いです。
第二の要素である入居施設「重症者ホームひさやま」が家庭により近い福祉施設として開設されました。渡辺診療部長が施設長を兼任されますので、詳しくは申し上げますが、介護サービス包括型グループホーム(共同生活援助事業)を担う福祉施設です。日中は通所などの日中活動、夜間は夜間生活の場として、ご家族も自由に出入りできる居住施設を目指し、医療サポート体制は外来を中心に実施されます。国の社会福祉施策が在宅支援を中心に展開されていく中で、ご家族の必要に向き合い計画された事業です。「在宅支援棟」と「重症者ホーム」とが呼応してお役に立てると幸いです。

開園祭の風景
「ふれあい・展示」の公開療育は、テーマが「パラバルーンで季節を感じよう」でしたが、入所児者5名・通所児者3名が参加し、観客も参加型にしたので様々な方に参加して頂きました。ふれあい活動は「ボーリング大会」で、たくさんの方が参加がありました。
定着してきた「閉会の集い」は、参加型の集いで、今までの開園祭の様子だけではなく、「重症児者と共に」という合言葉で喜びを共にしてきた保護者や支援者、ボランティア、地域

の方々の様子が写真を通して伺えました。
開園祭の実施後
また開園祭後の実行委員会が開かれ、準備や打合せ不足などの課題を共有しました。今年の開園祭は、商品バザーを新品とそれに準じるものに限定したことや商品そのものが年々減少傾向にあること、食堂実施時間の表記を30分切り上げるなど準備や当日の実情に応じた枠組みで準備が進められました。開園祭は伝統的に職員や保護者を力づける何かがあるという印象を私は感じていましたが、その見えない何かを伝達するために、一昨年から引き続いて、新しい職員に対する開園祭研修を実施し理解を促しました。
おわりに
来場頂いたお客様の殆どの方から「良かったですね」という励ましと肯定的な評価を頂きました。世相の変化から商品数や内容が縮小されましたが、それでも予測以上の売り上げがあり、また多くの献金を頂きました。重症心身障害児(者)のために「在宅支援センター」の運営資金を中心として活用して行きたいと思えます。
「愛の手を」を通じて支援して下さる友の会会員の皆様や読者の皆様、これまでのご支援を感謝致しますと共に、思いを新たにして重症児者へのサービスの向上を目指して参りたいと存じます。



開園祭勤続表彰職員の声

30年表彰を受けて

看護学校卒業後、数年間一般病院で勤務しました。

学生時代から思いがあった重心施設を「看護学雑誌」より見つけ、久山療育園を面接したのが30年前のことです。

前理事長の川野先生や小山元看護部長から「久山療育園はこれからだ」と言われ、また「重心の看護はあなた達が造るのですよ」と促され入職しました。

何度となくあきらめかけましたが、その都度利用者の声、笑顔に支えられ、また自分の家族、先輩、同僚に励まされ、今があると思います。

多くの自分を支えてくれた方に感謝し、今回の表彰を励みに重心看護の素晴らしさを伝えながら、良き看護者を育てていきたいと思っています。

(看護部長 吉本法生)

月並みな言い方ですが、こんなに長く勤めさせて頂いたなんて信じられないほど、あつという間に過ぎた30年でした(正確に言うと31年なんです)。人生の半分以上を、久山でお世話になってしまいました。

私が入職した頃はまだまだみんな小さくて

(体も年齢も)、片手でヒョイと抱けるほどでしたし、平均年齢も10代でした。

私も年齢だけは一緒に成長しましたが、中身は…?

いろいろな出来事や出会い、別れがあり、その一つ一つが昨日のこのように思い出されます。皆さんが小さく可愛かった頃の話なら、お任せ下さい!

何だか退職の挨拶のようですが、微力ながらあと少し皆さんと一緒に働かせて頂きたいと思っています。

勤続30年の表彰をして頂きありがとうございます。ごぞいます。

(めぐみ棟師長 野口 恵)

25年表彰を受けて

拙い私を、25年間勤務させていただき深謝申し上げます。ついこの間20年

表彰を受けたばかりのようですが、この5年間に、大好きだった利用者さん、ご家族、母との別離がありました。出会いも別れも必然で、時の流れの中ですっかり受け止めていくものと解っていて、やはり寂しいですね。久山は、建物が立派になり、組織が確立され、一連のルールが作られ、大きな施設へと成長しました。施設の色合いも変わっていくことで

しよう。でも、神様の導きにより、ここに呼び集められたひとりひとりとして、

利用者さんも、ご家族も、スタッフも、久山に関わる多くの方々も、各々がありのままの個性を尊重され、認められ、輝き、皆が心から笑いあえる、明るい施設であり続けてほしいと願ってやみません。創立期を支えて下さった方々、天国に旅立たれた利用者さんおひとりおひとりの証しを胸に、これからも、「めぐみとひかり」が満ち溢れる、良き「ひさやま」を「共に生きて」行けたらと思います。表彰、本当にありがとうございます。

(ひかり棟介護福祉士 金子マスマ)

20年表彰を受けて

久山療育園に務め20年も経ち、皆さんとも20年も楽しく過ごさせて頂いてきたのだなあと思うと、感謝の気持ちで一杯です。

利用者の方々、保護者の方々、スタッフの方々、ボランティアの方々等沢山の入達に出会い、笑顔、優しさに触れることで私自身も少しずつ成長させて頂いてきました。

私も子を産み、育てる中で、子供の成長に一喜一憂し、命の尊さを感じ、改めて久山の利用者の方々の命の輝きを感じています。

これからも利用者の方々を中心に皆さんが笑顔で楽しく過ごしていけるお手伝いができ、共に歩んでいけるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

(保育士 古賀クミ)

15年表彰を受けて

今思いますに、月日の経つのは本当に早いなあって感じます。まさに「光陰矢の如し」です。15年前の久山療育園は、まだ古くてこじんまりとした感じでした。食事の体制も「4回食制」でしたし、養育部という部署があって、私の配属された部署がそこでした。指導員として、ソーシャルワークも担当していました。保護者の方々の家庭訪問もよく行いました。そして、毎週日曜日は交流ホールに保護者の皆様と集まって、前理事長の川野先生を中心に「サンデースクール」を行っていました。当時の保護者会長の方(たいら)さん他、たくさんのお父さんお母さんが集まってくださり、聖書の勉強や福祉施策の動向を勉強したりととても充実した時間を共に過ごす事が出来ました。

この事は、「障がい者自立支援法」施行の際に、早い段階で事前に情報を知らせる事が出来、心の準備をする事が出来ました。私にとっては「サンデースクー

ル」での思い出は、忘れる事の出来ない宝物となっています。私は、定年退職まで残すところ3年ほどになってしまいましたが、残された期間を悔いの無いように精一杯頑張っていたと思います。あえて目標を掲げるとしたら、在職中に「社会福祉士試験」に合格する事です。

(療養育主任 島本和明)

5年永年勤続表彰を受けて

この度は5年永年勤続表彰をいただき、ありがとうございます。

5年前の4月...看護学校を卒業したばかりで、何もわからず戸惑っていたのが、昨日のこのように思い出されます。あつという間の5年でしたが、先輩方の優しく温かい指導があったから、ここまで勤務することが出来ました。

また、大好きな利用者の皆さんが、私がつらい時に、笑顔で元気をくれるので頑張れます。

ここまで成長させて頂いた、たくさんの方々に感謝しながら、これからも働いていきたいと思えます。

(めぐみ棟 看護師 原田真理)

永年勤続5年表彰していただきありがとうございます。あつという間に5年が経過したことにビックリしています。久山療育園で働かせて頂き、日々利用

者さんと関わっていく中で多くのことを学び、多くの笑顔を頂き本当に感謝しています。今後も安全・安楽にケアを提供できるように、初心を忘れず頑張りたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

(めぐみ棟 看護師 今磯 弘通)

この度は5年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。今年で入職して7年目を迎えました。あつという間の7年でしたが、初めての就職、出産と本当に様々なことがありました。入職して間もない頃は仕事を覚えることで精一杯の日々を過ごしていました。利用者の方々と触れ合っていくなかで、一人一人の素晴らしい個性に気付かされていきました。苦しいことや辛いこともあるなかで、一生懸命一日一日を過ごす利用者の

方々を見て、「生きる」ということを真剣に考えさせられます。また昨年出産を経験し、子どもという大切な存在ができて、今まで以上に利用者の方々に対する思いも大きなものになりました。これからも、皆様から頂く温かい気持ちを大切に、共に歩んでいきたいと思えます。

(めぐみ棟 看護師 國崎 愛)



第39回 開園祭 表彰者

ボランティア表彰者

| | | |
|----------|--------|---|
| 10000 時間 | 大高 玄子 | 様 |
| 3000 時間 | 久芳 洋子 | 様 |
| 2000 時間 | 萩尾 満之 | 様 |
| 1000 時間 | 松本 修一 | 様 |
| 500 時間 | 北古賀 由美 | 様 |

職員永年勤続表彰者 (敬称略)

| | |
|------|--------|
| 30 年 | 吉本 法生 |
| | 野口 恵 |
| 25 年 | 金子 マスミ |
| 20 年 | 古賀 クミ |
| 15 年 | 島本 和明 |
| 10 年 | 松岡 芳和 |
| | 嘉村 由香 |
| 5 年 | 國崎 愛 |
| | 大谷 美保 |
| | 原田 真理 |
| | 前田 香織 |
| | 土居 務 |
| | 今磯 弘通 |
| | 清水 敦子 |

すばらしいプレゼントありがとうございます

ロジテム九州からの贈り物

毎年献品頂いているロジテム九州から、今年も「久山療育園の利用者のために、役立つものを送りたい」という嬉しい申し出がありました。

毎年園では、「あれにしようか、これにしようか」と嬉しい悩みです。病棟職員と相談した結果、今年には利用者の体調を確認するのに必要なパルスオキシメーターにしました。

それは、呼吸状態がすぐに確認できるコンパクトな器械です。毎年、毎年本場にありがとうございます。大切に使用させていただきます。

JA粕屋からの贈り物

JA粕屋企画管理の方が来園され、久山療育園の利用者に贈り物をしたという申し出がありました。

今回はリクライニングが出来、下肢を安静に保つことが出来る車椅子を2台献品して頂きました。

この車椅子は、車載することも可能なので、他の病院に検査等で受診するときや散歩などに使用させて頂きたいと思えます。

ありがとうございました。

ボランティアだより

ボランティア講習会

一月七日(土)、今年度二回目のボランティア講習会を行いました。一〇名の方に参加いただき、保護者の体験談の際には六名のスタッフが部分参加しました。今回は、受講者全員が学生の皆さんで、フレッシュな雰囲気の中、熱心に参加して頂きました。

毎回、好評をいただく体験談は今回、ボランティアは白濱さん、保護者は、めぐみ棟の野中さん、グループホームの山元さんにお話し頂きました。白濱さんには、利用者の皆さんとの関わりとその中でお感じになられている充実感、今後も来園し続けようと思われていることなどを話して頂き、野中さん、山元さんには、お子様を育てられたなかでの様々な思い、入園や入居を決められた経緯、ご兄弟との関わり、地域の方との関わり、ボランティアさんへの期待など今回も貴重なお話を頂きました。

皆さんの感想をご紹介します。

「利用者ご家族の体験談が特に印象に残り、様々なことを勉強できた」

「ご家族の体験談を聞いて自分が思っている以上に家族は大変な思いをしていて、これからのことも考えていかなければいけない、ということを知れた」

「ボランティアさんの体験談を聞いて私も参加してみたいと思った」

「ふれあいの時間では利用者の笑顔に癒された」

「ふれあいの時間で、本当に嬉しそうにしている方がいて、こちらまで楽しい気持ちにさせてもらった」

「ふれあいの時間は短時間だったので、もう少し長く関わりたいと思った」

「今回初めて重症児者と交流をしてみても戸惑うこともあったが、利用者の方、職員の方、ご家族の方、それぞれが頑張っておられるのだとわかった」

「障害があることの大変さばかりでなく、その障害があることでわかること、考えられるこ

とがあったり、出会いがあったり、という前向きな経験もできた、という話が印象に残った」

「施設内に家族の宿泊室があることが印象に残った」

など、さまざまな貴重な感想をいただきました。

来年度も、さらに内容を充実して行っていきたいと考えております。皆さんの皆さんのご参加をお待ちしております。

(相談支援員 山田)



久山療育園 クリスマスのご案内

☆入所利用者のクリスマス
12月15日(火)
10:30~
メッセージ 山田雄次理事長

☆久山療育園クリスマス会
12月17日(木)
13:30~14:30
メッセージ 踊一郎牧師
(西南学院バプテスト教会牧師)

*終了後、懇親会開催の予定

☆通所クリスマス
12月18日(金)
10:30~
メッセージ 山田雄次理事長

歩行器



コロニー友の会では十月、十一月の二ヶ月間に集中して「在宅支援センター」の建築支援として三つの特別支援の取組みが行われました。本当に有難いことです。その活動を紹介いたします。

一つは、北海道のじゃがいもとかぼちゃを扱った特別バザーです。福岡・北九州両地方連合の教会と久山療育園の職員及び利用者の保護者の方々の協力を得てじゃがいも六百箱、かぼちゃ四百箱、送料十トンの販売です。献金の目標は四十五万円となっています。

二つ目は、久山デー(第三回)の開催です。久山療育園施設訪問ボランティアの主催でDVDの上映による久山療育園の紹介をはじめとして、音楽演奏とバザーの開催をおして相互の出会いを楽しみ集いで、献金として十五万四千三百円が届けられました。

三つ目は、重症者ホームひさやまの施設長・渡辺浩行先生の演奏グループ「アンサンブル・カブリチオーゾ」の皆さんの出演によるミニコンサートの開催です。会場と時間を変えて三回に亘って行われ、「都合のよい日時」に、「都合のよい会場」にお越し下さい」と呼びかけが行われています。チケットの販売金が献金されます。

二〇一五年度のコロニー友の会の建築支援献金一〇〇万円の目標が達成されるよう祈るものとす。

(Y・Y)

